

2023 年度全国科学博物館活動等助成事業
実施内容報告書

2024 年 4 月 10 日

交付番号： 23004

テーマ名： 文化観光発信施設としての博物館をアート×サイエンス×コミュニティから模索する

氏名・所属： 大平 創・十日町市立里山科学館越後松之山「森の学校」キョロロ

助成金額： 400千円

1. 事業の概要

アーティスト×サイエンティスト×コミュニティ協働のイベントを開催した。具体的には、①館野鴻氏著作の絵本原画展（アート）、②絵本題材の解説および標本・生体の展示（サイエンス）、③アート&サイエンスカフェおよび観察会（コミュニティ）を開催した。



2. 事業の実施場所及び実施期間

実施場所： 十日町市立里山科学館越後松之山森の学校「キョロロ」（新潟県十日町市）

実施期間： 2023 年 3 月 18 日（土）～7 月 9 日（日）（当初予定では 4 月～10 月まで

だったが、キョロロの企画展期間および演者都合等により変更となった)

3. 事業の目的

越後妻有地域の特色を活かしたアート×サイエンス×コミュニティの融合による新たな科学博物館のあり方を模索し、地域の活力向上を目的とする。改正された博物館法における文化芸術基本法に基づくことに鑑み、博物館は文化観光の中核として機能していくことが求められる。キョロロは「越後妻有 大地の芸術祭」における主要施設のひとつであることから、アートとの融和性が非常に高い。また、地域に根差した博物館をめざしており、地域市民との繋がりを重要視している。アート×サイエンス×コミュニティを結びつけ、地域の活力向上に繋げる本事業の取り組みは、博物館法改正後の博物館活動の展開における好例のひとつとなる。

4. 事業の実施場所および実施期間

実施場所： 十日町市立里山科学館越後松之山森の学校「キョロロ」(新潟県十日町市)

実施期間： 2023 年 4 月 1 日(土)～7 月 9 日(日)

ただし、企画展の期間は 2023 年 3 月 18 日(土)～7 月 9 日(日)。当初の計画ではイベント(3 回目)を 10 月に予定していたため、実施期間は 10 月末までとなっていたが、イベント(3 回目)の開催日が 7 月 1 日に変更となったため、企画展の期間に合わせて 7 月 9 日までとなった。

5. 実施内容および結果

本事業は次の 3 つの軸から実施した：①館野鴻氏の絵本原画展、②絵本の題材となっている昆虫の解説および標本・生体の展示、③アート&サイエンスカフェおよび観察会。これらは来館者が多いグリーンシーズンに開催し、連動した一連のイベントとした。当初の予定ではイベントの開催月を 5 月、7 月、10 月としていたが、演者都合につき 5 月、6 月、7 月に変更した。

①館野鴻氏の絵本原画展(アート)

生き物にまつわる絵本を手掛ける館野鴻氏の原画展を開催した(図 1)。館野氏はキョロロ開館当時から親交があるアーティストのひとりであり、館野氏の精緻な原画が鑑賞できる機会を設けた。館野氏が手掛けた作品には「ぎふちょう」、「つちはんみょう」、「しでむし」、「がろあむし」といった昆虫をテーマにしたものが多く(偕成社から出版)、キョロロ周辺を含む里地里山で見られる生き物であることから、非常に相性が良いものであった。

会期中の来館者数：7,418 名

会場： 「森の学校」キョロロ 企画展コーナー

展示物： 絵本作品「ぎふちょう」、「つちはんみょう」、「しでむし」、「がろあむし」から原画 20 点程度

期間： 2023 年 3 月 18 日（土）～7 月 9 日（日）

②絵本の題材となっている昆虫の解説および標本・生体の展示（サイエンス）

絵本の題材の各昆虫について、サイエンティストであるキョロロ学芸員・研究員が解説する加えることで、より専門的な部分も含めて深く学び、生物の多様性や生態系における重要性を理解してもらう場を設けた（図 1）。また、ワークシートやお絵描きシート等を用意して教育要素やハンズオン要素も充実させた（図 2）。ワークシート（図 2A, B）やお絵描きシート（図 2C）に挑戦し、回答・お絵描きをした入館者には、企画展のテーマにあわせた生き物カードをプレゼントした（図 2D, 4 種類から 1 つを選んでもらう）。

原画展期間の終了後、原画を除く解説パネルは形式を変更して展示した（図 2-4）。企画展で使用したパネルは大型であったため、内容を凝縮して新たな小型パネルを作成し、館野氏の絵本とともに常設の展示コーナーを設置した。

企画展期間中はヨツボシモンシデムシ、ギフチョウ、ヒメツチハンミョウ、ガロアムシ類の一種の標本を展示するとともに（図 1C）、ガロアムシ類の一種は生体展示も行った（図 1E）。生体展示は予算が執行可能となった 4 月 1 日以降に設置し、次の夏季企画展（2023 年 7 月 15 日～10 月 9 日）や十日町市博物館との連携企画展（2023 年 10 月 21 日～2024 年 3 月 10 日）においても展示を続けた。ガロアムシの生体展示の詳細については、紙面の都合によりここでは省略するが、紀要または昆虫関係の同好会誌等に投稿し、公開する予定である。

また、当初の計画にはなかったが、館野氏が仕事で使用している道具類（鉛筆、絵筆、パレット、観察容器等）も借り受けることができたため、これも展示した（図 1D）。

会場： 「森の学校」キョロロ 企画展コーナー

展示物： 企画展の紹介パネル

各昆虫の生態や生態系における役割・機能等に関する解説パネル

標本（ヨツボシモンシデムシ、ギフチョウ、ヒメツチハンミョウ、ガロアムシ類の一種の乾燥標本または液浸標本）

生体（ガロアムシ類の一種）

館野氏の仕事道具類

配布物： キョロロからの挑戦状（ワークシート）

お絵描きシート

キョロロ生き物カード

感想アンケート（原画展と併用）

入館料： 500 円（中学生以下は無料、企画展示の観覧料ではない）

期間： 2023 年 3 月 18 日（土）～2023 年 7 月 9 日（日）

③アート＆サイエンスカフェおよび観察会（コミュニティ）

原画展の関連イベントとして、2023 年 5 月、6 月、7 月にそれぞれ 1 回ずつ開催した（図 3）。館野鴻氏（アーティスト）に加え、各回キョロロ所属または所縁のある研究者（サイエンティスト）が出演した。それぞれ 5 月は菌類の専門家である出川洋介氏（筑波大学生命環境系准教授，図 3A），6 月はシデムシをはじめとする昆虫類の専門家である鈴木誠治氏（北海道大学農学研究院研究員・昆虫はかせネットワーク*代表，図 3C），7 月は植物や野生哺乳類の保全生態・分子生態を専門とする兼子伸吾氏（福島大学共生システム理工学類准教授，図 3E）に出演を依頼した。トークショーは、市民から参加者を広く募集し、様々な視点を交えたサイエンスカフェ形式とした。「生き物とアート」、「生き物とサイエンス」、「アートとサイエンス」などについてトークを交わしながら、里地里山における生物多様性や生態系の保全について、地域コミュニティが果たす役割を考える場とした。各回のトークショーの様子は動画で記録し、森の学校キョロロ友の会会員および関係者向けに、限定公開（キョロロの YouTube チャンネルにアップロード）した。

アート＆サイエンスカフェ後には、近隣のフィールド（キョロロの森）に出かけ野外の生き物の観察を実施した。絵本に登場する昆虫類をメインに生態観察を実施し、より深く自然や生物多様性を学ぶ機会とした。5 月はギフチョウ、6 月はシデムシをテーマとした観察会を開催予定であったが、5 月は天候不順により菌類を中心とした観察会になった（図 3B）。6 月は開催日の前々日にピットフォールトラップおよび野村ホイホイと呼ばれるベイトトラップを設置し、開催時に回収して採集された昆虫を観察した（図 3D）。また、7 月はガロアムシを含む土壌動物を対象として観察会を実施する予定だったが、天候不順により屋内で館野氏の指導のもと生物の絵を描くワークショップに代替した（午前開催としワークショップ後にトークショーを開催，図 3F）。このワークショップでは、キョロロ所蔵の標本や剥製を題材として、生き物の身体づくりや質感を観察しながら、絵を描く練習を行った。

会場： 「森の学校」キョロロ 多目的ホール・キョロロの森

出演者： 館野 鴻（絵本作家）

出川洋介（筑波大学生命環境系准教授）

鈴木誠治（北海道大学農学研究院研究員，昆虫はかせネットワーク*代表）

兼子伸吾（福島大学共生システム理工学類准教授）

募集人数： 各回 30 名

期日： 第 1 回 2023 年 5 月 7 日（日）

10:00～12:00 アート＆サイエンスカフェ

13:00～15:00 観察会

第2回 2023年6月3日（土）

10:00～12:00 アート＆サイエンスカフェ

13:00～15:00 観察会

第3回 2023年7月1日（土）

10:00～12:00 お絵描き教室（雨天につき予定変更）

13:00～15:00 アート＆サイエンスカフェ

参加費： 無料（ただし、キョロロへの入館が必要）

参加者数： 第1回 21名

第2回 29名

第3回 9名

*昆虫はかせネットワークは、新潟の昆虫少年少女を育み、未来の昆虫博士を育てることを目的に活動するグループである（<http://konchuhakaset.net/index.html>）。

本事業に関する企画展およびイベント開催は、チラシを作成して周知した（図4）。ウェブサイトやブログでも公開して、広く周知することに努めた。また、企画展の開催チラシについては、十日町市内の小・中学校および保育所・認定こども園をはじめとして、市内各所や市外の関係団体等に配布し、広く周知を図った。



図 1A-F. 企画展および展示の様子。 A. 企画展の様子 1（解説パネルと絵本の原画）；B. 企画展の様子 2（解説パネルと絵本の原画）；C. 展示物（乾燥標本・液浸標本）；D. 展示物（ガロアムシ類の生体）；E. 展示物（舘野氏の仕事道具）；F. 展示物（企画展後の新設コーナー）

A | ロロからの せんじょう 挑戦状

Q1 冬のノウサギはどんな色？

答え ☐ 茶色
☐ 白色
☐ 黄色

Q3 シテムシ (ヨツボシモンシテムシ) はだれが子育てをする？

答え ☐ 子育てはしない
☐ 母親だけがする
☐ 母親と父親がする

Q2 サナギになったギフチョウはいつ成虫になる？

答え ☐ 秋
☐ 冬
☐ 次の春

Q4 ツチハンミョウの幼虫はなんの仲間に寄生する？

答え ☐ トンボの仲間
☐ ハチの仲間
☐ コウチュウの仲間

B

ツチハンミョウがもっている力はどれ？

答え ☐ 毒を出せる
☐ 糸を出せる
☐ 飛べる

Q6 日本で最初にガロアムシが見つかったのはどこ？

答え ☐ 魚沼 (新潟県)
☐ 菅平 (長野県)
☐ 日光 (栃木県)

Q7 ギフチョウが卵を産むのはどの植物？

答え ☐ ユリの仲間
☐ カンアオイの仲間
☐ スミレの仲間

Q8 死んだ動物が食べられて自然に分解されていくことは？

答え ☐ 生産
☐ 消費
☐ 分解

Q9 土のなかで暮らすガロアムシはなにを食べている？

答え ☐ 土や砂
☐ 植物
☐ 動物

Q10 他の問題の答えを並べるとできる生き物の名前は？

Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9

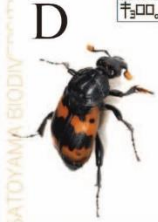
【ヒント】 昆虫の名前だよ

C

作品名 _____

名前 _____ 日時 _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____

D



ヨツボシモンシテムシ
Microphorus quadripunctatus



ギフチョウ
Luehdorfia japonica



ヒメツチハンミョウ
Meloe coarctatus



ガロアムシ
Gallaisiana nipponensis

図 2. 配布物. A. ワークシート (表面) ; B. ワークシート (裏面) ; C. お絵描きシート; D. 生き物カード



図 3. アート&サイエンスカフェと観察会等の様子. A. アート&サイエンスカフェ (5 月) ; B. 観察会 (5 月) ; C. アート&サイエンスカフェ (6 月) ; D. 観察会 (6 月) ; E. アート&サイエンスカフェ (7 月) ; F. お絵描き教室 (7 月)



図4. チラシ類. A. 企画展開催チラシ; B. イベント参加募集チラシ